

コスモス 3月号

第71巻 第3号

◆宮柁ニカレンダ―(48) 三月の歌

眼鏡にて近づきゆけば恋の花の感傷もちて堅

香子の花

歌集『忘瓦亭の歌』

昭和五十年「かたかごの花」と題する四首中の二首目の歌。

柁二のふるさとは月遅れの雛祭りがあり、カタクリは雛壇に無くてはならない花である。町には雪が深く残っているが山の日当たりの良い所に咲き始めるカタクリを野菜売りのおかかが「カタコの花、いらんかのう」と売りに来る。

三句の恋の花とは花言葉の〈初恋〉からの連想だろう。ふるさを思い初恋を懐かしんでいる作者六十三歳の歌である。
(黒岡美江子)